

【相談内容】

No96.木橋の補修設計・補修工事について

- 木橋であり、令和3年度に架替をしたが、長持ちさせる方法はないか？
- 特に橋脚が川や海からの石で削られる懸念がある。

【助言内容】

- 相談内容の「木橋を長持ち（長寿命化）させる方法はないか」について、メンテナンスサイクルを通して、最適な時期に措置を実施する予防保全を進め、橋の適切な維持管理を実施することが重要となる。
- 定期点検の頻度は、5年に1回実施することを基本としている。直轄国道においては、供用開始後2年以内に初回点検を実施している。初回点検を実施する目的としては、「初期損傷を早期に発見すること」、「橋の初期状態を把握してその後の損傷の過程を明らかにすること」である。初期の不具合が生じるのが概ね2年以内とされるのに加え、初期には乾燥収縮によりボルトの緩みが生じたり表面保護塗装が劣化したりする事例が報告されている。
- なお、2年以内の初回点検により、長寿命化や省コスト化が図れた事例がある。
- 「特に橋脚が川や海からの石で削られる懸念がある。」とあるが、本橋梁の橋脚において、川や海からの石で削られる懸念が本当にあるのか（上流・下流でその様な事象が確認される等）を確認した上で対策を検討することが効果的だと考えられる。
- 石などの衝突が想定される場合は、橋脚の保護にも考慮が必要。橋脚への石の衝突も許容するのか、衝突を防ぐのかなど検討するのがよいと思われる。また、木構造については、蟻害、腐朽に対する処理を考慮すると長持ちする可能性がある。

（参考）

- 木橋の定期点検に関する資料で道路管理者判断のもと参考にできる可能性があるものとしては「木橋定期点検要領 令和4年8月（日本林道協会、木橋技術協会）」がある。